

週休二日の実現に向けて



働き方を変える。建設業を変えていく。

これは、単なるスローガンではありません。必ず成し遂げるという宣言であり、約束でもあります。

小さな気付きや行動から、業界全体を変えていく。

一人ひとりの働き方を見直すことが、次世代の働き手を増やすことにもつながると思うから。

週休二日を。

誰もが笑顔で働ける未来を。すべての現場で実現していきます。



確かなものを 地球と未来に

一般社団法人 **日本建設業連合会 九州支部**

JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS KYUSHU BRANCH OFFICE

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目3-22 産恵ビル3階 TEL 092-451-6244 FAX 092-481-0941

編集・発行 **総務広報委員会**

一般社団法人 日本建設業連合会 本部・各支部

本部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3553-0701 FAX03-3551-4954		中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21 TEL052-261-3808 FAX052-261-4363		愛知・岐阜・静岡・三重	
北海道支部	〒060-0002 札幌市中央区北二条西1-10 TEL011-261-6243 FAX011-261-2528		北海道	関西支部	〒540-0031 大阪市中央区北浜東1-30 TEL06-6941-3658 FAX06-6942-4031		大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
東北支部	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 TEL022-221-7810 FAX022-265-9465		宮城・青森・岩手・秋田・山形・福島	中国支部	〒730-0051 広島市中区大手町2-11-15 TEL082-243-3017 FAX082-242-2380		広島・鳥取・島根・岡山・山口
関東支部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3552-3208 FAX03-3552-3206		東京・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・長野	四国支部	〒760-0026 高松市磨屋町6-4 TEL087-851-6969 FAX087-851-3176		香川・徳島・愛媛・高知
北陸支部	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 TEL025-285-8886 FAX025-285-8884		新潟・富山・石川	九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 TEL092-451-6244 FAX092-481-0941		福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

(一社)日本建設業連合会ホームページ
<https://www.nikkenren.com/>

日建連のホームページには、建設業に関する基本データ、戦後の建設業界の関連年表、全国の土木博物館一覧表、また、他では見られない迫力ある土木写真など、お役に立つ情報が満載です。ぜひ、アクセスしてみてください。

九州の建設業[キーストン]

Keystone

要石(かなめ石)の意。社会資本の

整備を通じて当団体が、豊かな未来づくりのかなめとなるよう願いをこめて。

vol.
41

2025年2月発行



小倉城(北九州市)

一般社団法人 日本建設業連合会 九州支部

Message

支部長ご挨拶



(一社)日本建設業連合会
九州支部 支部長

小森 浩之
〈鹿島建設(株) 常務執行役員 九州支店長〉

建設事業に係る全ての関係者が win-winの関係となるように

九州支部長の小森でございます。
本誌をご覧の皆様には当支部の事業活動につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り
厚く御礼申し上げます。

さて、2024年を振り返ると、元日の能登半島地震や、全国各地で発生した豪雨災害、
8月の「南海トラフ地震 臨時情報」の発表などがあり、防災・減災、国土強靱化の推進が
極めて重要であることを再認識させられた年でありました。
また、日本経済を支えるインフラの老朽化、劣化の影響が顕在化してきており、国民生活
を脅かしております。
これらのことから、防災・減災、老朽化対策等、国土強靱化への意識が高まり、現在、防災・
減災・国土強靱化対策が推進されております。
私ども建設業界では、生産性の向上にも努めており、日建連としても、会員企業を挙げて、
公共工事の迅速かつ円滑な施工に万全を期す所存であります。

また、4月から、建設業にも時間外労働の上限規制が適用され、これまで取り組んできた
「働き方改革」の真価を問われる一年でもありました。
建設業全体では、好調な受注額を維持しているものの、資材、エネルギー価格の高騰、
円安に伴う物価の上昇などにより、労務費や資材価格の上昇を十分に価格転嫁できて
いない状況が続いています。

このような中、2024年12月に施行された改正建設業法に基づき、労務費や資材価格の
高騰などの価格変動リスクに関して、請負代金等の変更方法を契約書記載事項とする
ことや、発注者が、契約変更協議に誠実に応じることなどが定められました。
今後、建設業界では、発注者、元請、協力業者、更にはサプライヤーも含めた建設事業に
係る全ての関係者がwin-winの関係を構築できるよう、それぞれの立場で取組を進めて
いかなければなりません。

私ども九州支部会員一同は、建設業の社会的役割を果たしながら、国民の理解促進を
図りつつ、建設業界の健全な発展と魅力ある建設産業づくりのための活動を展開してまいり
ますので、皆様のご理解ご協力と今一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

九州の建設業 [キーストン] Keystone

vol. 41
2025年2月発行

contents

九州ウォッチング

2 Kitakyushu Action!
動かせ、未来。北九州市
〈北九州市〉

けんせつ小町

いつもイキイキ けんせつ小町！
10 前田建設工業株式会社 九州支店
栗原 麻悠さん
12 東急建設株式会社 九州支店
廣瀬 文香さん

現場見学会

来て、見て、感じてみよう！土木・建築の魅力
14 **親子現場見学会** 夜明発電所総合更新工事
15 **けんせつ小町
現場見学会及び交流会** 〈仮称〉天神ビジネスセンター2期計画
16 **一般現場見学会** 大分210号 川下トンネル新設工事・八丁原発電所
17 **土木工事現場見学会** 令和3年度東九州自動車道 臼杵トンネル工事

日建連の取組み

18 けんせつ小町7人がFMラジオに出演し、
建設業の仕事を紹介！

Report

19 ・土木の日ファミリーフェスタ2024
20 ・九州の社会資本整備の重要性に関するシンポジウム
21 ・災害支援関係説明会
・九州建設技術フォーラム2024
22 ・建設BCPガイドライン講習会
・災害防止総決起大会
23 ・意見交換会
・インターンシップ講演会
24 ・建設技術講演会
・建設業界の働き方改革に関する講習会
25 ・安全環境委員会活動



Outline

26 団体の概要

Information

28 会員・役員名簿

Kyushu watching

九州ウォッチング

Kitakyushu Action!

動かせ、未来。北九州市

★ 北九州市



〈北九州市長〉
たけうち かずひさ
武内 和久 昭和46年4月19日生まれ

■略歴

平成 6年 3月 東京大学法学部卒業
平成 6年 4月 厚生省(現:厚生労働省)
令和元年 7月 BLOOMIN' JAPAN株式会社 代表取締役
令和 2年 6月 株式会社インターネットインフィニティ 社外取締役
令和 5年 2月 20日 北九州市長

はじめに

北九州市は、昭和38年、門司、小倉、若松、八幡、戸畑、それぞれ色合いが違う五つの市が対等合併し、九州初の「百万都市」、「政令指定都市」として誕生しました。

地理的に優位な“アジアの玄関口”に位置し、豊富な水源に加えて、災害リスクの低い強靱な土地を有するうえ、幅広い企業が集積し、確かな技術力があります。ものづくりのまちとして、明治の産業革命や高度経済成長をけん引するとともに、近年ではIT企業や半導体関連などの未来産業の誘致・進出が進むなど、時代の最前線で常に新しいことへ挑戦しています。

このようなポテンシャルを最大限に活かし、今後更なる発展を図るため、令和6年3月、北九州市では、約16年ぶりとなる新

ビジョンを策定しました。『つながりと、情熱と、技術で、「一歩先の価値観」を体現するグローバル挑戦都市・北九州市』を目指し、3つの重点戦略として「稼げるまち」、「彩りあるまち」、「安らぐまち」の実現を掲げています。

そして今、北九州市では、北九州空港滑走路の3,000m化の着工や、響灘沖の洋上風力発電所の着工、下関北九州道路の都市計画手続きの開始など、街が大きく動き始めています。この勢いをさらに増していくために、「女性が活躍しやすいまち、コンパクトな(心地よい)まち」や、環境先進都市としての蓄積に裏付けされた「世界をリードするサステナブルシティ」を目指して、新たなチャレンジを続けていきます。

北九州市・新ビジョン

北九州市基本構想・基本計画
(令和6年3月策定)

北九州市が目指す都市像

つながりと情熱と技術で、
「一歩先の価値観」を体現する
グローバル挑戦都市・北九州市

ひとの数だけ、スポットライトがある。
だれもが主人公になって、イキイキと
自分の人生をもっと好きになって進んでいく。

一人ひとりに宿る力を、もっと支え、挑戦を後押しできる都市へ。
積み重ねてきた歴史を、
脈々と継承し、新しい価値を生みだせる未来へ。

多様な個性がまざりあい、つながりあうからこそ
生みだされる価値は、日本のみならず世界へと大きく広がり、
だれもが豊かで安らげる未来をつくっていく。

つながりと情熱と技術で、
「一歩先の価値観」を体現するグローバル挑戦都市へ。
さあ、愛さずにいられない未来を、北九州市から。

3つの重点戦略と「成長と幸福の好循環」

目指す都市像の実現に向け、重点的に取り組むべき方向性を示した**3つの重点戦略**を定めました。

都市の経済力を高める「稼げるまち」の実現を起点に、
こころ豊かな生活に対する多様なニーズに応える「彩りあるまち」の実現や、
誰もが日々の暮らしに安心と安らぎが感じられる「安らぐまち」の実現につなげ、
まちも人も潤う「成長と幸福の好循環」を創り出し、都市の総合力を高めていきます。

重点戦略Ⅱ 「彩りあるまち」の実現

多様なライフスタイルニーズの高まりに応えるため、
民間の投資や開発などを喚起し、魅力的な街並みや住環境、教育環境、文化芸術・スポーツに接する環境、観光などのコンテンツを充実させ、自分らしさを大切にできる、多様な選択肢があるまちを実現

- 都市の魅力を高める「街並み」づくり
- 観光資源の磨き上げや発信の推進
- 将来の可能性を開く教育環境の充実 など

重点戦略Ⅲ 「安らぐまち」の実現

「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現による
“成長の果実”により、生活の基盤である安全・
安心な暮らしを確保・充実するとともに、人々がお互いを尊重し、支え合い、心豊かに暮らすことができるまちを実現

- 災害などに強いまちづくりの推進
- 誰もが安心して暮らせる環境づくり
- 子どもの健やかな成長への支援 など

循環の起点(最優先課題)

重点戦略Ⅰ 「稼げるまち」の実現

北九州市の魅力を全国に発信し、北九州市を訪れ、
その魅力に触れて、関心を高め、体験してもらう取組を強化、また、未来産業の集積や、
市内企業の生産性向上、スタートアップの創出など、企業活動の進出や
拡大を通じて、誰もが活躍できるまちを実現

- 陸・海・空のネットワーク構築
- 多様な人材が働くことができる環境の整備
- 成長の芽となる「未来産業」の進行 など

つながりと情熱と技術で、
「一歩先の価値観」を体現する
グローバル挑戦都市・北九州市



北九州市・新ビジョンの
全体版は市ホームページで
ご覧いただけます。



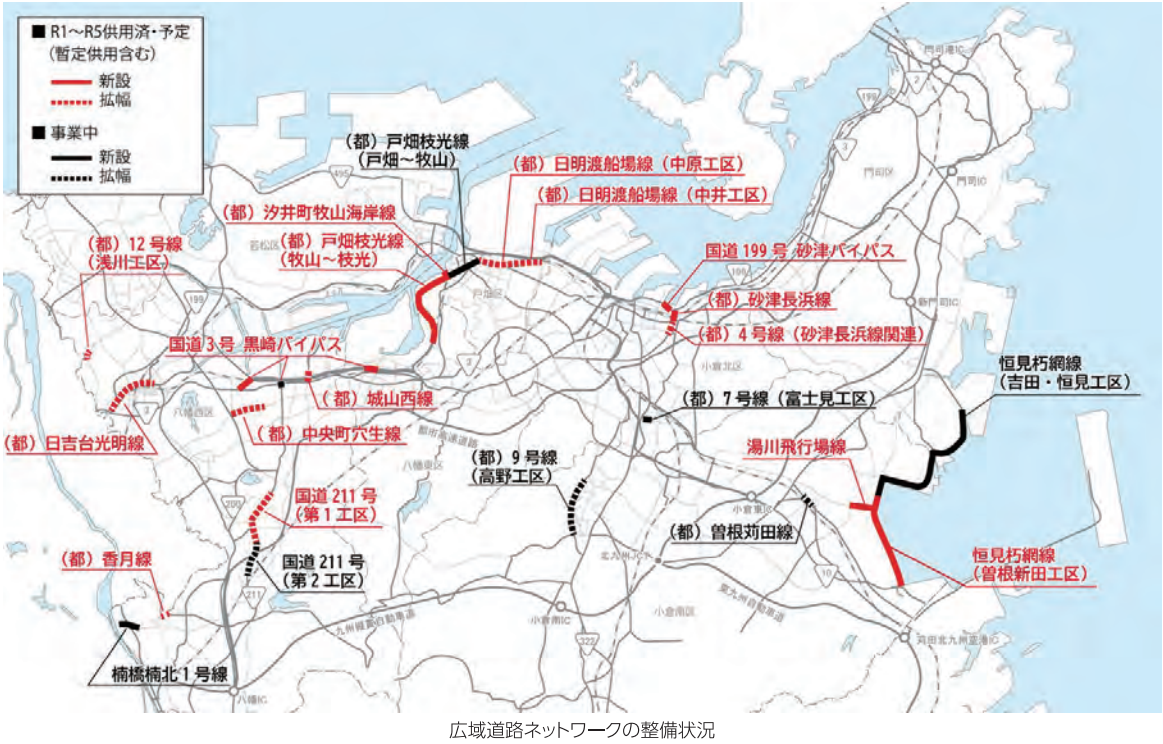
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/28500266.html>

1 道路事業

1.広域道路ネットワークの整備

北九州市は、本州と九州の結節点に位置し、本州及び九州の各方面に延びる高速道路網が発達しており、北九州港や24時間運用可能な北九州空港など、陸・海・空の交通・物流インフラが充実しています。

これらの交通・物流拠点間を結びとともに、北部九州エリア全体のメガリージョンの形成や本州から九州各地域間の広域連携及び安定的な産業活動の確保や活性化を図るため、広域道路ネットワークの整備を進めています。



2.都市計画道路 戸畑枝光線

都市計画道路戸畑枝光線は、北九州都市高速道路の一部を構成し、環状放射型の自動車専用道路ネットワークを形成するもので、響灘地区、戸畑臨海部、東田地区などを結び、広域道路ネットワークの一部を担う重要な道路です。また、本路線は山間部に位置する都市高速4号線が災害時に被災した際に、緊急輸送ルートとして活用でき、リダンダンシーを確保するうえでも、極めて重要な道路となっています。

なお、整備にあたっては、街路事業と有料道路事業との合併施行方式で進めています。本路線の周辺では、平成24年度に若戸トンネルや国道3号黒崎バイパスが都市高速道路に接続されましたが、本路線を含む約5km区間はミッシングリンクとなっています。そこで環状部のミッシングリンクを解消し、北九州市の経済活性化及び生活環境の向上を促進するため、平成23年度から枝光牧山間の整備に着手し、平成26年度から牧山戸畑間の整備に着手しています。



3.国道3号黒崎バイパス

国道3号黒崎バイパスは、北九州市八幡東区西本町から八幡西区陣原を結ぶ全長5.8km、片側2車線の自動車専用道路です。また、国道3号黒崎地区の渋滞解消、地域産業の振興や黒崎地区の再生及び自動車専用道路ネットワーク形成など、北九州市の活性化の鍵を握る重要な道路です。国土交通省が平成3年度から事業着手し、平成24年度までに陣原ランプから都市高速道路接続区間が開通しました。そして、令和5年3月18日には、春の町ランプ及び陣原ランプが開通し、国道3号の東西方向のバイパスが完成。周辺道路の混雑が緩和され、利便性が向上しています。

また、平成20年度からの暫定供用以降、令和5年度末時点で、沿線には92社の企業が進出し、138棟の共同住宅が分譲開始するなど、ストック効果が着実に現れています。現在は全線供用に向け、国道200号に接続する黒崎西ランプの整備が進められています。



4.下関北九州道路

下関北九州道路は、北九州市と下関市の都心部を結び、循環型ネットワークの形成により、暮らし、産業・物流、観光、渋滞緩和など地域の一体的発展に寄与するとともに、本州と九州の広域的な人流・物流及び経済活動の活性化を支える大動脈、災害時の代替路としての機能・役割を担う極めて重要な道路です。

令和元年から国による直轄調査が行われ、令和2年度に計画段階評価が実施され、海上部の構造形式が橋梁となりました。その後、令和3年度から、都市計画及び環境影響評価を進めるための調査が開始され、令和6年5月にルート素案が完成しました。現在、令和8年春頃を目標として都市計画決定に向けた手続きを進めています。



5.若戸大橋・若戸トンネルの強靱化

若戸大橋は、若松区と戸畑区をつなぐ我が国初の本格的な長大吊橋であり、平成30年12月に若戸トンネルとともに無料化されて以降、この2路線を合わせた交通量が増加しています。また、令和4年2月には国の重要文化財に指定、同年3月には日本夜景遺産にも認定されるなど、観光面でも非常に重要な役割を担っています。

若戸大橋の安全性や信頼を確保するため、定期的な点検を行うとともに、橋の塗り替え等の大規模修繕に取り組んでいます。九州初の沈埋方式により整備した若戸トンネルについては、開通から10年以上が経過し、今後は大規模な設備の更新等も必要となるため、計画的な予防保全に取り組む予定です。



2 港湾・空港事業

1.北九州空港機能強化

北九州空港は、周防灘の沖合3kmに位置する海上空港であり、九州・西中国で唯一の24時間利用可能な空港です。平成18年3月16日開港以来、地理的優位性と特長を生かせるよう、利用促進に取り組んできました。

こうした状況の中、令和5年3月、悲願の滑走路3,000m化の新規事業化が決定しました。同12月に現地での工事が着工され、令和9年8月末の供用開始に向け、事業が推進されています。滑走路が3,000mに延長されることで、大型貨物機の北米・欧州への長距離飛行が可能となり、北九州空港の物流拠点化と地域経済発展に大きく寄与することが期待されます。半導体を中心とする産業の活発化による貨物需要の増加をとらえ、雇用の創出に伴う地域経済の発展など、様々な波及効果に繋がるよう、北九州空港の機能強化と利用促進に引き続き取り組んでいきます。



24時間利用可能な海上空港



九州・西中国で唯一、貨物定期便が就航

2.グリーンエネルギーポートひびき事業 ～風力発電関連産業の総合拠点形成～

北九州市は、平成23年から風力発電のあらゆるサービスを国内、また東アジアに向け、提供するための総合拠点形成を進めています。現在、この事業の一環として誘致した「北九州市響灘洋上ウインドファーム」の建設が本格化しており、西日本で唯一の指定を受けた北九州市の基地港湾の利用も開始されたところです。

最大出力22万kWのこの大規模ウインドファームは、令和7年度に運転開始予定であり、市内の約4割に当たる17万世帯分の電力を供給することとなります。今後は、浮体式に対応する拠点形成についても、戦略的に取組を展開していきます。



海外で製造された風車部材の受入状況(基地港湾)



SEP船による風車基礎坑の施工状況(北九州市響灘洋上ウインドファーム)

3 河川事業

1.河川事業とにぎわいづくり

北九州市では、「安らぐまち」の実現に向け、河川の氾濫による水害から市民の命や財産を守るため、河川改修に取り組んでいます。さらに、生物の生息・生育環境を保全するとともに、市民の潤いと癒しの場として活用し、親しみのある河川となるよう環境整備を行っています。

また、都心部を流れる紫川では、河川改修と同時に市街地整備等「まちづくり」を進め、賑わいのある水辺空間を形成しています。



整備前



整備後

金山川 調節池



撥川



紫川(親水広場)

2.巨過地区再整備事業

巨過地区は北九州市の小倉都心部に位置し、「北九州の台所」として長年親しまれている巨過市場を有しており、北九州市の重要な商業拠点の一つとなっています。しかし、隣接する二級河川神嶽川の流下能力不足に伴う度重なる浸水被害や、木造建築物の密集化・老朽化など、防災面において多くの課題を抱えています。

このため、神嶽川の河川改修事業と立体換地手法を活用した市施行による巨過地区土地区画整理事業を一体的に実施する「巨過地区再整備事業」を推進しています。令和4年度には二度にわたる大規模火災の被害を受けましたが、市内外の多くの方々からのご支援により、現在は復興から再整備の段階に移り、着実に事業を進捗しています。



防災面の課題

1.河川上空に張り出した店舗／2.平成22年浸水状況／3.4.密集化・老朽化した建物



立体換地建築物のイメージ

4 公園事業

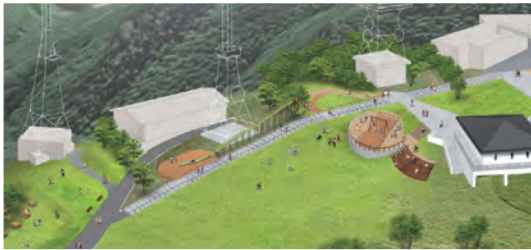
1.公園事業(桃園公園・帆柱公園)

公園事業では公園の機能や役割に合わせた施策を実施し、みんなに愛される魅力ある公園づくりを推進しています。桃園公園では、周辺のスポーツ施設の集約・再編を行い、公園内に柔剣道場や屋内プール、庭球場などを整備するとともに北九州市が目指す「こどもまんなか社会」を推進するため、「こどもまんなか公園」として、子どもや子育て世代の意見を踏まえた遊具広場等の再整備に取り組んでいます。

また、北九州市が「日本新三大夜景都市」に全国1位で再認定され、注目度が高まっている皿倉山の帆柱公園では、山頂広場に遊具や展望施設等を整備することで、家族連れや若者など幅広い層に長時間過ごしてもらえる空間づくりを推進しています。



桃園公園(遊具広場の整備イメージ)



帆柱公園(山頂広場の整備イメージ)



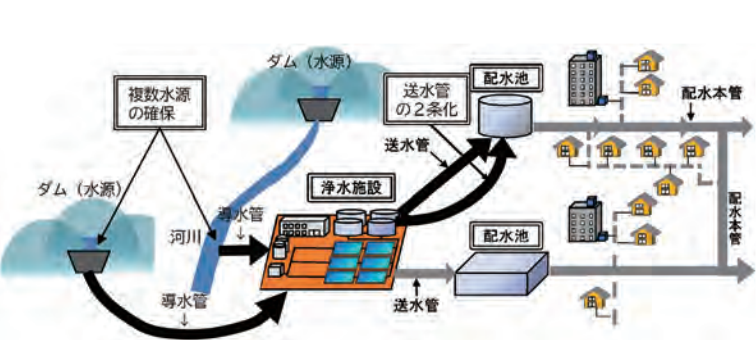
帆柱公園(ロングスライダー(イメージ))

5 上下水道事業

1.地震等対策の推進(上下水道)

上下水道事業では、水道の安全で安定した供給、下水道の汚水排水や水処理機能を確保するため、防災・減災の観点から、施設の耐震化やバックアップ機能の強化等を図っています。特に機能確保が必要とされる急所施設の浄水場・配水池等や処理場・ポンプ場については、施設の改築・更新事業にあわせて効率的に耐震化を進めています。

また、水道管路については、基幹管路や広域避難地及び災害拠点病院等に至る配水管を優先的に、下水道管渠では、地震の被害を受けると社会的影響の大きな重要施設と処理場を結ぶ管渠などを優先しながら、老朽化対策とあわせて耐震化を進めています。いずれにしても、施設の耐震化にはコストと時間を要することから、ソフト対策(他都市や民間団体との合同訓練等)と組み合わせながら市民生活への影響が最小限になるよう、総合的な地震対策に取り組んでいます。



水源の多様化
※図：基幹管路の2条化・ループ化のイメージ(国土交通省HPより引用[一部修正])



配水池耐震化工事の状況(柱の補強)

2.重点整備地区における浸水対策(下水道)

令和3年3月に策定した「北九州市上下水道局雨水対策基本方針」において、「浸水リスク」や「都市機能集積度」を定量的に評価したうえで、新たに「重点整備地区」(16地区)を設定しました。同地区については、北九州市における過去最大規模の降雨(70mm/h)に対して、床下浸水が概ね解消できるように、雨水整備を進めることとしており、令和7年度までに16地区のうち、9地区の完了を目標としています。

これまで、天籟寺初音町幹線(内径2,000mm、延長約1.6km)や昭和町雨水貯留管(内径3,000mm、延長約1.5km)等の整備を行い、5地区の整備が完了しました。さらに、内水浸水想定区域図の公表、雨水タンク助成制度の開始など、自助・共助の促進に向けたソフト対策を充実させ、市民の防災意識向上を図り、災害に強く、安らぐまちの実現に向け、取り組んでいます。



昭和町雨水貯留管

6 その他の事業

1.折尾地区総合整備事業

折尾地区を学園都市の玄関口にふさわしい地域拠点として再構築するため、平成16年度から鉄道を高架化する「連続立体交差事業」、幹線道路や駅前広場を整備する「街路事業」、駅南側の住環境の改善等を行う「土地区画整理事業」を一体的に実施する「折尾地区総合整備事業」に取り組んでいます。

現在、南側駅前広場周辺の民間開発を早期に実現するため、南側駅前広場及びそのアクセス道路を令和7年度までに完成させるよう鋭意事業を実施しています。引き続き、折尾地区のポテンシャルを生かし、北九州市の西の玄関口として、しっかり民間投資を呼び込み、市内外から若者を含め新たに人が集まり、住みたくするような魅力的なまちづくりを進めていきます。



折尾駅周辺の鉄道高架化

2.公共工事関係部署のDX推進プラン

北九州市では、令和4年4月より「公共工事関係部署のDX推進プラン」に基づき、公共工事関係部署の業務DX化に取り組んでいます。公共工事に関しては、「ICT活用工事」、「ASP(受発注者間情報共有システム)」、「遠隔臨場」、「BIM/CIM」、「オンライン監督・検査」などに取り組んでおり、工事受注業者及び市職員の業務効率化を進めています。

また、官民が連携して建設業の生産性向上を図り、魅力的な建設現場を創出することを目的とした「北九州市i-Construction推進協議会」を設置し、市内建設業者の方々や市職員を対象にICT関連の研修や体験会を積極的に開催しています。今後も、公共工事関係部署のDXを推進し、生産性向上を図るとともに、安全で快適な労働環境の実現に努めていきます。



ICT活用工事



ICT関連体験会



仕事と家庭の両立を図り、 良い建物をつくり続けたい。

くりはら まゆ 前田建設工業株式会社 九州支店 天神プロジェクトⅡ作業所(〈仮称〉天神ビジネスセンター2期計画)工務
栗原 麻悠さん 2017年入社／愛知県出身／金城学院大学 生活環境学部 環境デザイン学科卒業

建設業界に入った理由は何でしょうか。

住宅設計に興味を持っていたことが、きっかけです。高校時代の進路選択の際に建築を学べる大学への進学を決め、入学してからは建築士の受験資格が取れるカリキュラムを履修しました。4年間にわたって、「構造」や「設計」など建築分野の知識を広く学んだことが思い起こされます。学生時代に就職活動を進めるなかで、住宅とは異なる大規模商業施設やビジネスビル建築など、建設業が担うスケールの大きな仕事に憧れを抱いたことから、ゼネコンの当社へ入社しました。

現在の仕事内容ややりがいを教えてください。

地下躯体工事に関わる品質管理業務を経て、現在は工務を担当。鉄骨部材の製作に関わる詳細図のチェックや鉄骨造に取り合う外壁や間仕切り壁、建具などの製作図を確認しています。朝、工事の進捗状況をチェックするほかは、作業所内で図面確認に取り組んでいる毎日です。自分が担当した図面で、工事が進むことに大きな責任を感じていますが、規模の大きな工事に関わる喜び、そして工事の竣工に向けて一丸となっていく現場の一員として携われることにやりがいを感じています。

これからの目標や叶えたい夢はありますか。

担当している建築物件が、不具合なく竣工を迎えることが目標の一つです。また、この現場に関わることで多様な経験を積み、建築のプロになることをめざします。今は育児中で慌ただしく過ごしていますが、今後まわりのサポートをいただきながら仕事と家庭を両立させて、長く働き続け、良い建物をつくり続けることが夢です。これから建設業界へ入る女性の皆さんに、女性も長く働き続けられる会社だと知ってもらえたら嬉しいです。そして将来、自分が関わった物件を娘に自慢できたらいいなと思っています。

未来のけんせつ小町へメッセージ!

ここでは工事に関わる女性職員として、工事担当者3人、品質管理担当者2人、工務担当者2人、事務員1人の合計8人が働いています。建設業界はまだ男性が多いイメージですが、女性も大いに活躍できる業界に変わってきています。女性の皆さんにぜひ建設業への関心を広げていただき、今後、けんせつ小町の一員として共に建設業を盛り上げられたら嬉しいです。

工事情報 工事名：〈仮称〉天神ビジネスセンター2期計画／概要：地上18階・地下2階・屋上塔屋2階、免震構造採用／場所：福岡市中央区天神1丁目／工期：2023年10月～2026年6月／施工企業：前田・旭特定建設工事共同企業体



ある1日のスケジュール

- 7:30 出勤
- 7:40 作業所職員朝礼
- 8:00 現場朝礼・現場確認
- 9:00 部材図面チェック
- 12:00 昼休み
- 13:00 作業所職員ミーティング
- 14:00 部材図面チェック・打合せ
- 18:00 退勤(帰宅前に保育園へお迎え)



現場の視点も持ち合わせた 事務員としてさらに成長を。

ひろ せ あや か
廣瀬 文香さん | 東急建設株式会社 九州支店 総務部兼土木部工務グループ
2020年入社／群馬県出身／帝京大学 法学部 法律学科卒業

建設業界に入った理由は何でしょうか。

建設業に携わっていた両親の影響で、幼い頃から建設業に憧れがありました。また、合唱やバンド活動などを通して経験した、「みんなで一つのものをつくり上げていく作業」が好きなことも理由です。学生時代に様々な建設業のインターンシップや会社説明会に参加するなかで、建設業のやりがいや使命（スケールの大きいものづくり・半永久的に残る仕事・人々の当たり前を支え続けより豊かにする仕事など）を知って、どんどん建設業に魅せられたことから志望しました。

現在の仕事内容ややりがいを教えてください。

総務部兼土木部工務グループで事務を担当しており、「作業所事務（福岡県・熊本県のトンネル工事現場）」および「土木工務事務（支店土木部全体の損益管理等）」に携わっています。やりがいは、ものづくりの最前線に近い環境で仕事ができることです。文系出身であっても、ものづくりの醍醐味を体感できることに喜びを感じています。また構造物が完成した際、これから便利になるということで笑顔みせる地元の方々の姿を目にしたときにも、この仕事に就いて良かったという満足感を覚えます。

これからの目標や叶えたい夢はありますか。

これからも作業所事務や工務事務での経験を積み重ねながら、さらに工事現場の多様な知識を吸収したいと考えています。事務分野に加えて、工事現場の視点も持ち合わせた人材として、いずれ経営にも携わって会社の発展に寄与できるように成長したいです。この先、私自身のライフステージも変化していきますが、建設のやりがいを感じながら仕事を継続していくことで、これから建設業界で働く女性の方々のロールモデルになればと思っています。

未来のけんせつ小町へメッセージ！

まだ女性の少ない業界で苦労することもあります。女性だからこそできることもたくさんあると感じています。年々、女性が働きやすい環境は整ってきており、今後さらに整備されていくはずです。より女性が安心して働ける業界となるように、私自身も頑張りたいと思っています。建設分野に関心のある多くの方々と将来、一緒に働くことを楽しみにしています。



ある1日のスケジュール

社内業務
の場合

- 8:45 出勤
- 8:50 ラジオ体操
- 9:00
 - メールチェック
 - タスク共有会議
 - 契約書・請求書・決裁書類等の内容確認
- 12:00 昼休み
- 13:00
 - 作業所現況ヒアリング会議
 - 支店土木部決算数値予想・報告資料作成
 - 作業所問い合わせ対応
 - 勤怠実績・CCUSタッチ状況等集計
- 18:00 退勤

夜明発電所総合更新工事

■開催日／2024年8月7日 ■場所／大分県日田市 ■施工企業／前田・戸田・梅林特定建設工事共同企業体



毎年、夏休み中に開催している親子現場見学会。今回は32人の参加者が、大分県日田市で行われている「夜明発電所総合更新工事」の現場を訪問しました。当日は、猛暑のなかでの実施になりましたが、冷たいドリンクやキャンディを配るなど熱中症防止対策を講じながら行われました。現場から少し離れた説明会場では、九州電力の担当者が科学的な電気のつくり方や発電方法の種類などを解説。次いで前田建設工業の作業所長が、施設の改修工事の方法を紹介しました。説明会では、子どもたちから「発電用の水の中に魚は入らないの？」や「切り取ったコンクリートはどこに行くの？」などの質問もあり、高い関心が伺えました。

昼食の後は、筑後川沿いの道路を通過して工事が行われている現場へ移動し、まずは発電所建屋内で進行中の工事を見学。その後は、そびえ立つ大きなサージタンク（水圧調整用設備）の内部へ工事用階段を使って入り、内側の様子を見て回りました。川の水が通る、導水路トンネルの内部も観察。少しヒヤリとする温度を、子どもたちも不思議がっていました。終了後は参加者から、「初めて工事現場に来て驚いた（小学生）」「とても勉強になり、楽しかった（保護者）」などの声が聞かれ、夏休みの学習や思い出づくりに役立ったようでした。



大きなサージタンクの内部へ移動。



少し涼しいトンネルの中も見学。

見学MEMO



「夜明発電所」は、約70年前に運転を開始した水力発電所です。長年にわたって使われてきたこの設備を未長く使用するための老朽化対策として、水車・発電機の取替や導水路の補強などの更新工事が行われており、この工事によって年間発電量1,300万kWhの増加が見込まれています。工期は、2023年から2027年までの約4年間の予定になっています。

〈仮称〉天神ビジネスセンター2期計画

■開催日／2024年11月12日 ■場所／福岡県福岡市 ■施工企業／前田・旭特定建設工事共同企業体



けんせつ小町交流会



けんせつ小町現場見学会

日建連九州支部のけんせつ小町部会が企画した「けんせつ小町現場見学会及び交流会」が行われ、建設業界で働く女性39人が参加しました。交流会の開始に際し、けんせつ小町部会の部会長が「今回の会合を通して参加者同士の交流を深めていただきたい。また、今後も女性が働きやすい環境づくりを広報していきたい」と挨拶。次いで、「けんせつ小町の活動紹介」をはじめ、部会の4人が働く日常をプレゼンする「建設業界で働く女性の姿－ロールモデルの紹介」などを行いました。終盤は、7グループに分かれて各自が1日の仕事の流れなどを説明したり、やりがいや悩みを話したりする「グループワーク」も実施。昼食時には、けんせつ小町が出演したラジオ番組を流して、広報活動の一端を紹介しました。

昼食後の見学会では、「〈仮称〉天神ビジネスセンター2期計画」の工事現場へ。見学の前に作業所に集合した一同は、作業所で働く前田建設工業のけんせつ小町から、ビルの工事概要の説明を受けました。その後は工事現場へ移動し、天神ビッグバンに伴って着々と進んでいるビルの躯体工事の様子を見学しました。変わりゆく天神地区の様子、また大きな建機が動くスケールの大きな工事を間近に見た後に、約5時間にわたる交流会・現場見学会は終了しました。



建築現場で全員の集合写真！



工事概要説明に聞き入る皆さん。

見学MEMO



「〈仮称〉天神ビジネスセンター2期計画」の工事は、天神地区に新たな空間と雇用を創出するプロジェクト「天神ビッグバン」に伴って、福岡市中央区天神1丁目が進められています。建築中のビルは、地上18階・地下2階・屋上塔屋2階で、免震構造を採用しており、工期は2026年6月までの予定になっています。

大分210号 川下トンネル新設工事・八丁原発電所

■開催日／2024年11月19日 ■場所／大分210号 川下トンネル新設工事：大分県日田市、八丁原発電所：大分県玖珠郡九重町
■施工企業／大分210号 川下トンネル新設工事：安藤ハザマ



土木学会西部支部と日建連九州支部との共催による現場見学会が行われ、老若男女の参加者29人が2カ所の現場を訪問しました。最初の見学地は、「大分210号 川下トンネル新設工事」の現場です。三隈川沿いの国道の横にある工事現場に降り立った参加者は、工事担当者から「加々鶴トンネルは鉄道トンネルだったこともあり、大型車両の接触が頻発している」などのトンネル新設の理由、また、どんな方法で工事が行われているかといった概要説明を受けました。その後は、実際にトンネルに入ってウォッチング。担当者の説明を聞きながら、使用される重機や支保工が施工された内部をじっくり見学したり、最先端場所で行われている掘削の様子に目を向けたりしてトンネル工事の知見を深めました。

昼食が済んだ後は、素晴らしい景色が広がる九重方面へと向かい、地熱を活用して発電を行っている「八丁原発電所」を訪問しました。八丁原発電所展示館では動画などで地熱発電の仕組みを学びましたが、環境にやさしいクリーンな発電方法には誰もが感心しているようでした。また、発電所内に設置された大きなタービンなども見て回りました。今回は山間地区での見学となりましたが、トンネル工事や地熱発電の知識を吸収するとともに深まる秋の景色を楽しむ1日となりました。



トンネル工事に興味津々の参加者の皆さん。



発電所内の大きなタービンも見学。

見学MEMO



「大分210号 川下トンネル」は、内空断面不足などの道路構造をはじめ、急峻な地形と河川の間にある地形状況などの諸問題を抱える「加々鶴トンネル」に替わり新設されるトンネルです。延長895mで、工期は令和8年(2026年)2月28日までの予定。「八丁原発電所」は、九重連山の地下から取り出した蒸気を利用して発電を行う、日本最大の地熱発電所です。

令和3年度東九州自動車道 臼杵トンネル工事

■開催日／2025年1月20日 ■場所／大分県臼杵市 ■施工企業／鹿島・梅林特定建設工事共同企業体



高校生に建設業の魅力を伝え、就職を意識してもらおうと開催している土木工事現場見学会。2024年度は大分工業高等学校土木科の1年生77人が、建設の進んでいる「令和3年度東九州自動車道 臼杵トンネル工事」の現場を訪問しました。高校生たちは、まず学校内の会議室に集合。発注者のNEXCO西日本、設計を担当したオリエンタルコンサルタンツ、そして施工企業である鹿島建設の各担当者から、自社の事業内容、仕事のやりがいなどについての話を聞きました。1年生ということでまだ仕事がイメージしにくいこともあったようですが、「国家資格は持っているか?」「女性の割合は?」など複数の質問があがりました。

昼食が済むと4台のバスに乗りこみ、高速道路を通過して工事現場へ。作業所前で工事概要の説明を聞いた後、すでに貫通している臼杵トンネルを実際にバスで通って見学しました。また、臼杵IC側の坑口付近でバスを降りた高校生たちは歩いてトンネルへ入り、防水シートが施工された様子や移動式型枠などを観察。高校生からは、「普段は入れないトンネル工事を見学できてとてもためになり、将来関わる仕事をイメージできた」や「初めてトンネル工事を見学したけど、知らない機械などがあって勉強になり、楽しかった」「トンネル構造に興味湧いた」などの感想が聞かれました。



仕事のやりがいなどを高校生たちに説明。



バスに乗ってトンネル内を見学。

見学MEMO



「令和3年度東九州自動車道 臼杵トンネル工事」は、東九州自動車道(大分宮河内IC～津久見IC)間における4車線化事業約6kmのうちの本線の切盛土工、臼杵トンネル掘削工事および橋梁下部工工事を含む延長3,531mの工事。工期は、令和7年(2025年)4月までの予定。見学した臼杵トンネルは延長1,933mで、2024年11月に貫通しました。

株大林組／左から松本未来さん、野島えりなさん、
ノーニン ルウィンさん(ミャンマー出身：外国人派遣技術員)、田村海碧さん



大成建設株
楠畑菜津子さん



株竹中工務店
松浦冬美さん



西松建設株
福島怜奈さん



けんせつ小町7人が FMラジオに出演し、 建設業の仕事を紹介!

建設業で働くすべての女性の愛称である「けんせつ小町」をアピールするため、(株)大林組から1チーム(4人)、大成建設(株)、(株)竹中工務店、西松建設(株)から各1人、計7人のけんせつ小町が、4回に分けてFMラジオ「LOVE FM(ラブエフエム国際放送)」の番組、「スイッチオン! DAYTIME」に出演し、それぞれの仕事内容や仕事のやりがいなどを紹介しました(12時30分から約10分間放送)。

今年で3年目となる放送では、いつものようにDJが「けんせつ小町」の愛称を説明。その後、現場で働くけんせつ小町に、「土木・建築分野で働こうと思ったきっかけは?」「どんな仕事を担当していますか?」「やりがいを感じるのはどんな時?」などをインタビューする形で進行していきました。併せて、日建連九州支部の活動も説明。放送局によると、4日間で延べ2万人～3万人がこの番組を聴取したとのことです。

もちろん今回も、番組に感想を寄せていただいたリスナーへ、抽選で「けんせつ小町オリジナルグッズ」をプレゼント。リスナーからは、「同じ女性としてパワーをもらえます」や「次回も楽しみです」のほか、「これからも頑張って!」などの声が届きました。

取材の様子は、天神・博多を中心に福岡の最新情報を発信している地域情報ポータルサイトの【天神サイト】を開き、「けんせつ小町」で検索すればご覧いただけます。

天神サイト けんせつ小町

検索

◀ラジオに出演したけんせつ小町



土木の日 ファミリーフェスタ 2024

■主催／福岡地区土木の日実行委員会
■開催日／2024年10月6日
■場所／国営海の中道海浜公園
こどもの広場管理棟

なぜ11月18日は
土木の日なの?



なぜ11月18日になったかという、2つの理由があります。1つは、土木という漢字をそれぞれ分解すると「土は十と一」「木は十と八」になるからです。もう1つは、社団法人「土木学会」の前身にあたる「工学会」の創立日が、明治12年11月18日なので、昭和62年にこの日を「土木の日」と定められました。

ラジコンゲームとキッズユニフォームでかわいい建設業をアピール!

「土木の日ファミリーフェスタ」は、“体験しよう!土木のちから!”をキャッチフレーズに開催される、ファミリー向けの楽しいイベントです。日建連九州支部は今年も、無人化施工を模した「バックホウ&ホイールローダーのラジコンゲーム」のコーナーを、こどもの広場管理棟の出入口近くに設置しました。このゲームは、リモコンでミニチュアのバックホウ&ホイールローダーを操作し、カゴの中のお菓子を拾い上げるゲームです。このゲームを通じて、子どもたちとその家族に建設業の仕事を紹介しようと企画されました。

また今年も、「ユニフォームから建設業界を変える」というコンセプトのもと、本部のけんせつ小町部会が監修・製作した、キッズ用ユニフォームを着用してもらいドリームプロジェクトを実施しました。ユニフォームをカッコよく身につけた子どもたちは、ラジコンゲームに熱中。また、ユニフォーム姿の写真撮影では、ピースサインでポーズ!スマホやデジカメを手にする保護者も、楽しそうな表情でした。ラジコンゲームコーナーには、イベントエリアを歩いて回った後に引き返して再挑戦する家族もいて、昨年に引き続いて大盛況となりました。



DREAM PROJECT

子どもたちに、もっと建設業に興味を持ってもらいたい。地域や人々の暮らしを支える大切な仕事だと知ってもらいたい。そんな想いで開催している現場見学会で、子どもたちが着用するオリジナルユニフォームを製作する『ユニフォームから建設業界を変える! Dream Project』。ユニフォームメーカーのHARADA株式会社とタッグを組み、機能的でかわいいオリジナルユニフォームブランドを手掛けているDREAMS COME TRUEの中村正人さんを迎え、子どもたちに「カッコいい!」「着てみたい」と思ってもらえるユニフォームを完成させました。

(ポスターのコピーから)

九州の社会資本整備の重要性に関するシンポジウム

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2024年10月16日 ■場所／電気ビルみらいホール



小森浩之 (日建連九州支部支部長)



押味至一 (日建連副会長・土木本部長)



「これからの九州の社会資本整備のあり方について」をテーマに3つの講演を実施

近年、気候変動の影響によって激甚化・頻発化している気象災害や切迫する巨大地震から国民の生命・財産を守るため、さらなる防災・減災、国土強靱化、インフラ老朽化対策の計画推進が喫緊の課題となっています。

したがって今後も、日本経済の発展を支えつつ、国民の安全・安心に寄与するストック効果の高い「社会資本整備」を、中・長期的な視点に立って戦略的かつ計画的に推進していくことが重要です。

このシンポジウムは、九州における社会資本整備が果たす役割とともに、防災・減災、国土強靱化策の必要性について幅広く共通認識の醸成を図ることを目的に、2021年に引き続き第2回目のシンポジウムとして開催されました。入場者は約300人を数え、新型コロナ対策で人数を制限された前回よりも増加。自然災害の頻発する九州においてどのような社会資本整備が必要かに耳を傾け、また、事業化が期待される具体的なプロジェクト情報に触れるなど多様な知識を深めました。

講演内容

- 1 「九州における国土強靱化とインフラ整備の展望」
森田 康夫 氏 国土交通省九州地方整備局長
- 2 「九州の経済発展と交流インフラ」
岡野 秀之 氏 公益財団法人九州経済調査協会
常務理事 兼 事業開発部長
- 3 「下関北九州道路の早期事業化を目指して」
利穂 吉彦 氏 JAPIC国土・未来プロジェクト研究会
下関北九州道路WGリーダー



災害支援関係説明会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2024年6月19日 ■場所／福岡国際会議場

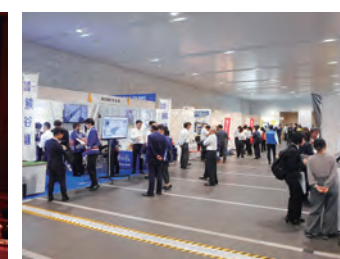


近年、気候変動の影響によって、大雨などによる気象災害が激甚化・頻発化しています。また、地震大国と称される日本は、常に巨大地震の危険に晒されています。日建連九州支部は、こうした起こりうる日本の災害状況をふまえ、九州地方整備局等と大雨や地震等の災害が起こった場合の「災害支援協定」を締結しており、要請に応じて、資機材等の支援を行うことになっています。

この支援を円滑に行うために、九州支部では支部会員企業から災害支援に携わる関係者を集めた「災害支援関係説明会」を開催しました。説明会では本部長（代行）の挨拶の後、「災害支援協定について」「災害対策要領・災害対策要領マニュアルについて」「緊急連絡体制表等の確認について」「工事箇所登録システムについて」「緊急通行車両登録について」「その他・情報伝達訓練について」が順次説明されました。その後は、各班で連絡メールを確認。また、6月24日の情報伝達訓練（昼間用）、6月27日の情報伝達訓練（夜間用）の2回、携帯電話やPCによる緊急時の確認作業が行われました。

九州建設技術フォーラム2024

■主催／九州建設技術フォーラム実行委員会ほか ■開催日／2024年10月8・9日 ■場所／福岡国際会議場



九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及促進をより効果的に図るために、「産」「学」「官」が、それぞれの新技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信・交換するイベントです。

2024年度は、「国土を守る、いのちを守る～進化する防災技術とその未来～」をテーマに各プログラムが実施されました。8日は、国土交通省国土技術政策総合研究所・道路構造物研究部部長の星隈順一氏による「道路構造物の防災・減災対策とマネジメントサイクルの進化に向けて」と題した基調講演が、また9日には特別イベント「土木×落語」も開催されたほか、2日間にわたってブース展示、ポスターセッション、プレゼンテーションなどで技術情報が提供されました（技術情報やPR動画は、WEBサイトからも配信）。なお、リクルーティングプレゼンテーションでは、日建連本部のリクルート担当者が土木の仕事やゼネコンの魅力などを、参加した建設業に関心のある大学生らに説明しました。フォーラムは今年度も大盛況で、2,800人を超える方々が会場に足を運びました。

建設BCPガイドライン講習会

■主催／日建連災害対策委員会BCP部会 ■開催日／2024年10月21日 ■場所／TKPガーデンシティ博多



BCPとは「事業継続計画」の意味で、大地震等の不足の事態発生時でも事業継続を実現するために定める計画を指します。事業継続のための予算・資源の確保、事前対策、取り組みを浸透させるための教育・訓練、文書の点検・継続的な改善といった取り組みなどを示すものです。建設業界は災害対応に関わる業界として、災害復旧時に幅広く積極的に活動することを社会から期待されており、公共インフラ・民間企業等の復旧工事といった観点からBCPの必要性が高い業種といえます。

講習会では、日建連九州支部の森勝出災害対策本部本部長代行の挨拶の後、東北大学災害科学国際研究所の丸谷浩明教授による「建設業のBCM/BCPの重要性」という講演を、ビデオ動画で実施。「建設業のBCPの実績」「建設企業BCPのチェックポイント」などを解説されました。続いて、日建連の坂克人常務執行役が登壇。「建設BCPガイドライン改訂のポイント」というテーマで、「改訂の目的」や「建設BCPガイドラインのポイント」などを説明されました。

意見交換会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2024年12月4日 ■場所／TKPガーデンシティ博多



毎年、日建連九州支部では国土交通省九州地方整備局と「意見交換会」を開催しています。2024年度は35人が出席して、意見を交換しました。

冒頭、小森浩之支部長が、「発注者とのパートナーシップ強化を図りながら、若者や女性にとって魅力的で健全な産業となるよう取り組みたい」と挨拶。これに対し「建設業が健全に持続し、若者が希望を持てる業界となるよう皆様と一緒に取り組みたい」と九州地方整備局の青野正志企画部長が挨拶されました。意見交換では九州支部による、「入札契約手続きについて」「週休2日制について」「生産性の向上について」「労働環境について」「業務の効率化について」「設計変更・工事一時中止について」「建設キャリアアップの取組状況について」「カーボンニュートラルへの取組について」「適正工期について」「物価高騰対策について」「技術者不足等について」といった提案テーマを説明し、九州地方整備局が回答。その後の「自由討議」も含め、約2時間にわたって活発な意見が交わされました。

災害防止総決起大会

■主催／日建連九州支部安全環境委員会 ■後援／福岡労働局 ■開催日／2024年11月25日 ■場所／福岡国際会議場



建設業における労働災害は長期的には減少傾向にあります。死亡者数は依然として全産業の中で占める割合が高く、憂慮すべき状況は変わりません。そこで九州支部では年末年始の災害防止活動として11月に「災害防止総決起大会」を福岡労働局の後援のもと開催し、労働災害の撲滅を期しています。2024年度は小森浩之支部長、そして福岡労働局の田村裕之労働基準部長の挨拶に続き2つの講演が行われました。

まず、福岡労働局労働基準部安全課の入江高志産業安全専門官が、「建設工事における労働災害の防止について」という演題で、「建設業3大災害の撲滅について」や「特定自主検査強化月間(11月)」などを説明。次に、九州地方整備局企画部の江口秀典技術管理課長が「建設業における最近の話題について」と題し、「働き方改革～九州地方整備局の新たな取り組み～」を重点的に解説されました。また講演後は、大津健二安全環境委員会第1小委員長が「決意表明」を上田哲夫安全環境委員会委員長へ読み上げ、大会は終了しました。

インターンシップ講演会

■主催／長崎大学 ■開催日／2024年12月4日 ■場所／長崎大学

2024年度インターンシップ講演会に
会員企業から2人を派遣！



日建連九州支部は毎年、長崎大学工学部工学科社会環境デザイン工学コースの要請によって会員企業から社員を派遣し、「インターンシップ講演会」で講演を行っています。これは、就職を控える学部学生および大学院生に対し、土木事業に携わる建設業者やコンサルタント業者、公務員の「生の声」を届け、進路決定に役立ててもらうために企画されたイベントです。

2024年度は(株)大林組と五洋建設(株)から2人が講師として派遣され、建設業界に関心を持つ学生たちにゼネコンの業務内容や自社の紹介、また仕事のやりがいなどについて説明しました。

参加者の声(社会環境デザイン工学コース3年生の感想文から抜粋)

■建設業は常に現場で働いて、肉体労働ばかりだと思っていたけど、現場が60%で内勤が40%の割合での勤務であることを知りました。現場では、現場監督として「工事全体のマネジメント」を、内勤では設計、研究など、「知恵・創意を結集し、現場に合わせた生きた設計」「使える技術を開発、即現場活用可能」という仕事をしていることを知り、内勤では建設コンサルタントよりも現場に密接した設計、研究ができそうだと感じました。大林組、五洋建設のどちらの会社も近年の働き方改革により働きやすい職場環境になっていると聞き、建設業(ゼネコン)は残業も多く、土日なども働いているというイメージがあったので少し意外だと思いました。

■ゼネコンでは現場監督となって最前線で仕事をするため、改めてすごく大変そうだなと思った。現場に出ること以外にも設計などの内勤もあると聞き、いろいろな仕事を経験できることを初めて知った。また、働き方改革によって土日祝日はお休みで、福利厚生なども充実しており、従来建設業にあった3Kのイメージが払拭され、働きやすくなっていることが分かった。

建設技術講演会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2024年12月16日 ■場所／福岡国際会議場



建設技術講演会は、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進し国民生活と産業活動基盤の充実に寄与することを目的に、建設産業に関する専門的知識の習得および研鑽を図るために開催されています。

2024年度は小森浩之支部長の挨拶に続き、3講演が行われました。最初は、九州地方整備局企画部の阿部成二技術調整管理官による「建設業における最近の話題について」という講演で、「働き方改革～九州地方整備局の新たな取り組み～」を重点的に説明されました。次に、歴史研究家・気象予報士で、元九州防災エキスパート会会長の松嶋憲昭氏が、「貞観11年(869年)の津波と高潮―災害の記録を軽視してはいけない―」を講演。貞観地震を柱に、様々な台風や高潮・津波の被害等や災害を伝える大切さを述べられました。最後は、国土交通省 不動産・建設経済局 建設業課の神澤直子建設業政策調整官がWEBで講演。「改正建設業法について」―改正建設業法による価格転嫁・ICT活用・技術者専任合理化を中心に―という内容を、ポイントを押さえて説明されました。

建設業界の働き方改革に関する講習会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2025年2月5日 ■場所／福岡国際会議場



2024年4月以降の時間外労働上限規制適用後、受注者・発注者双方によって、現場における規制順守に向けた様々な取り組みが講じられています。この取り組みの実施に際しては、受注者・発注者の連携が必要なものも多く、双方が内容を理解することが効果的です。このため、会員各社および協力会社等の現場従事者の理解促進を図る目的で、国やNEXCOにおける「働き方改革」の取り組みを紹介する2講演を開催しました。

小森浩之支部長の挨拶に続き、まず九州地方整備局企画部の青野正志企画部長が「九州地方整備局における働き方改革に関する取り組み」との演題で登壇。予算関係の解説を皮切りに、「国土強靱化関係」や「公共工事の現状と働き方改革に関する今後の取り組み」などを紹介されました。次いで、西日本高速道路九州支社の加治英希九州支社長が、「NEXCOにおける働き方改革に関する取り組み」と題し、「働き方改革及び工事円滑化に向けた取組み」「九州支社における取組み事例」などを説明されました。

安全環境委員会活動

現場点検の実施状況および講習会の開催状況

〈2024年度 安全環境委員会の主要活動〉

部会別区分	現場点検	講習会受講者
交 通	2回 6現場 12名	1回 45名
地下埋	1回 1現場 4名	1回 42名
火 薬 類	2回 3現場 8名	1回 19名
環 境	2回 8現場 17名	1回 46名
計	7回 18現場 41名	4回 152名



2023年度 表彰現場



日建連九州支部では現場点検に基づき、「公害防止及び建設副産物の適正処理・資源の再利用」等について、優良と認められた作業所を表彰しています。2023年度は、株式会社フジタ九州支店の日向バイオ作業所が、日向バイオマス発電所建設工事の施工にあたり、着工以来、所長を中心に全所員が一致協力して分別収集の安全を目指す等、その成績が優秀で他の模範と認められたことから表彰され、表彰状と盾が贈られました。

〈支部長表彰現場〉

環境対策優良現場

- 株式会社フジタ九州支店
- 日向バイオ作業所
- 日向バイオマス発電所建設工事
- 発注者／日向バイオマス発電所株式会社

団体の概要

〈一般社団法人日本建設業連合会〉

■設 立

(社)日本建設業団体連合会(旧日建連)、(社)日本土木工業協会(土工協)、(社)建築業協会(建築協)の三団体は、2011年4月1日に合併し、(社)日本建設業連合会(日建連)として新たに発足しました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。建設業界が大きな転換期を迎えつつある今、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開してまいります。

■目 的

日本建設業連合会(日建連)は、日本を代表する総合建設業者を主な構成員とする団体です。日建連は、建設業に係る諸制度をはじめ、建設産業における内外の基本的な諸課題の解決に取り組むとともに、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進することにより、わが国の建設産業界の健全な発展を図り、もって国民生活と産業活動の充実に寄与することを目的としています。

■会 員

日建連は、建設業界の連合組織であり、正会員である団体会員と法人会員、および特別会員によって構成されています。

- 法人会員…一定規模以上の総合建設業者
- 団体会員…主に総合建設業者で構成する事業者団体

さらに、日本国内で事業活動を行っている外国の建設業者および、建設業に密接に関連する事業を行っている法人を対象にした特別会員制度も設けています。

2025年2月1日現在の会員数は、正会員140社・5団体、特別会員6社です。

■役 員

総会において理事、監事が選任されます。任期はそれぞれ2年となっています。協会活動の円滑な運営を図るため、理事会の決議により会長、副会長、事務総長、専務理事、常務理事を置いています。

■機 関

事業を推進するため、次の機関を設置しています。

- ①総 会
定時、臨時の2種類があり、定時総会は毎年4月に開催されます。事業計画、収支予算、役員の選任など協会活動の基本的な諸事項について審議、決定します。
- ②理事会
通常、毎月1回開催され、総会に付議する事項や総会の議決を要しない会務に関する事項を審議、決定します。
- ③事業本部および委員会
協会活動の中心となる調査研究組織であり、2つの事業本部と2つの特別委員会、28の委員会を設けています。委員は会員各社から募り、建設業に係る諸問題について調査研究活動を行っています。
- ④支 部
全国9地区に支部を設置しています。支部には、支部長、副支部長、運営委員、監査委員を置き、本部の活動方針に基づく活動を行っています。
- ⑤事務局
本部、支部それぞれに事務局を設置しています。

〈九州支部の概要〉

■設 立

当支部は、本部の合併により、2011年4月1日から(社)日本建設業連合会(日建連)の九州支部となりました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。支部の活動は、引き続き従来どおりの活動を行うとともに、3団体合併の主旨に則り、建設産業全体の健全な発展へ向けた諸活動をより強力に展開してまいります。

■会 員

支部の会員は「九州地区において本社・支店等を有し建設業を経営する業者で、かつ、本部会員である者」に限られています。また、九州地区に本社・支店等がなくても、本部正会員であれば、支部の会員になることができます。したがって企業規模・技術水準・社会的信用などあらゆる面で真に業界を代表するに足る企業によって構成されている団体です。会員数は2025年2月1日現在で59社を数えています。

■役 員

支部長は総会において、支部長候補者の了承後、会長から任命されます。副支部長は総会で選任された運営委員の互選により支部長が任命します。副支部長は9名を置いています。監査委員は総会において推薦者の了承後監事が指名します。任期はそれぞれ2年となっています。

■事 業

- 本支部は次のような事業を行っています。
- ①災害対策への対応
 - ②公共工事の円滑な実施
 - ③安全・環境対策等の推進
 - ④請負契約制度の改善および積算の適正化と資材対策の推進
 - ⑤技術開発の推進
 - ⑥電力施設建設事業、鉄道建設事業、海洋開発建設事業の推進
 - ⑦広報活動の推進

■委員会

支部活動の中心となる調査研究機関として、広く会員から委員を募り、総務広報委員会、契約委員会、積算資材委員会、電力委員会、鉄道委員会、安全環境委員会、建築委員会を設置しています。

■沖縄支所

沖縄地区での活動を実施するため、1996年6月から沖縄に支所を置いています。支所に所属する会員数は43社を有しています。

一般社団法人日本建設業連合会九州支部会員

(五十音順 2025年2月1日現在59社)

ア

アイサワ工業(株)九州支店
青木あすなろ建設(株)九州支店
あおみ建設(株)九州支店
(株)浅川組九州営業所
(株)浅沼組九州支店
(株)新井組九州支店
(株)安藤・間九州支店

イ

岩田地崎建設(株)九州支店

ウ

梅林建設(株)

オ

大木建設(株)九州支店
(株)大林組九州支店
(株)大本組九州支店
(株)奥村組九州支店
オリエンタル白石(株)九州支店

カ

鹿島建設(株)九州支店
鹿島道路(株)九州支店

キ

九鉄工業(株)

ク

(株)熊谷組九州支店

コ

広成建設(株)九州支店
(株)鴻池組九州支店
五洋建設(株)九州支店

サ

佐藤工業(株)九州支店
三軌建設(株)

シ

清水建設(株)九州支店
ショーボンド建設(株)九州支店

セ

西武建設(株)九州支店
(株)銭高組九州支店

タ

大成建設(株)九州支店
大成ロテック(株)九州支社
大日本土木(株)九州支店
大豊建設(株)九州支店
(株)竹中工務店九州支店
(株)竹中土木九州支店

テ

鉄建建設(株)九州支店

ト

東亜建設工業(株)九州支店
東急建設(株)九州支店
東洋建設(株)九州支店
戸田建設(株)九州支店
飛島建設(株)九州支店

ニ

西松建設(株)九州支社
日特建設(株)九州支店
日本国土開発(株)九州支店
(株)NIPPON九州支店

ノ

(株)ノバック九州支店

ヒ

ピーエス・コンストラクション(株)九州支店

フ

(株)福田組九州支店
(株)フジタ九州支店
(株)不動テトラ九州支店

ホ

(株)本間組九州支店

マ

前田建設工業(株)九州支店
松尾建設(株)

ミ

三井住友建設(株)九州支店
みらい建設工業(株)九州支店

ム

村本建設(株)九州支店

モ

(株)森本組九州支店

ヨ

(株)吉田組九州支店
寄神建設(株)九州支店

リ

りんかい日産建設(株)九州支店

ワ

若築建設(株)九州支店

役員

(2025年2月1日)

支部長	鹿島建設(株)九州支店長 小森 浩之	副支部長	清水建設(株)九州支店長 湯原 克佳
副支部長	西松建設(株)九州支社長 吉田 卓生	〃	(株)安藤・間九州支店長 黒田 二郎
〃	梅林建設(株)社長 梅林 伸伍	〃	鉄建建設(株)九州支店長 重永 秀彦
〃	大成建設(株)九州支店長 西河 誠	〃	(株)大林組九州支店長 上田 哲夫
〃	(株)熊谷組九州支店長 山下 正治	〃	(株)鴻池組九州支店長 北西 隆司

運営委員	青木あすなろ建設(株)九州支店長 大石 雅俊	運営委員	日本国土開発(株)九州支店長 染矢 敏寿
〃	(株)奥村組九州支店長 町田 義文	〃	(株)フジタ九州支店長 吉村 康男
〃	九鉄工業(株)社長 松本 喜代孝	〃	前田建設工業(株)九州支店長 花岡 信一
〃	五洋建設(株)九州支店長 小倉 征巳	〃	松尾建設(株)社長 松尾 哲吾
〃	佐藤工業(株)九州支店長 中村 豊彦	〃	三井住友建設(株)九州支店長 長谷川 弘明
〃	(株)銭高組九州支店長 清水 隆司	監査委員	大日本土木(株)九州支店長 福武 伸吾
〃	(株)竹中土木九州支店長 小西 真臣	〃	東急建設(株)九州支店長 三嶋 昭
〃	戸田建設(株)九州支店長 畑中 靖博	〃	(株)不動テトラ九州支店長 佐藤 敬
〃	飛島建設(株)九州支店長 柳森 豊		